

NGO 委託結果報告会(1年目)

これまでMDT通信(32号、42号、47号)でお伝えしてきました、Foundation For Women (FFW)への委託事業「被害者による社会復帰・自立支援モデル構築のための活動支援」の1年目の活動が終了し、3月15日BATWCへ、3月22日JICAタイ事務所への報告が行われました。



タイ事務所での報告の様子

2010年5月から2011年2月までのわずか10ヶ月間、次のように実に様々な活動が実施されました。

- * グループリーダー向け研修(3回)
- * グループメンバー向けワークショップ(2回)
- * 地方メンバー会合(3回)
- * スキル訓練(3回)
- * コミュニティキャンペーン(3回)
- * 人身取引被害者直接支援(47名)
- * ニュースレター発行(9号)
- * 啓発活動教材作成(冊子、VCDなど)

特筆すべき点は、これらの活動は被害者自身が中心となって実施されたということです。日々の仕事もあり、家族の面倒もみなくてはならず、また被害者として心や体の傷をかかえている人もいます。そのような方々がこのような多くの活動をこなしていくのは並大抵のことではありません。熱意と自発性があればこそこのことです。これらの活動を通じて自分自身の体験をぜひ色々な人に知ってもらい、人身取引防止の啓発活動に役立ちたいというメンバーも多く出てきたようで心強いことです。

1年間の活動を通じて次のことが重要だということが明らかになりました。

1. 被害者自身の問題解決
2. 心身リハビリ
3. 家族やコミュニティにおける受け入れ
4. 子どもや家族などの存在
5. ピアグループへの参加(これによって問題解決の一步につながる)

まずは、被害者自身の様々な問題、たとえば心身の回復、家族や子供の問題、借金など経済的な問題を解決することが先決です。そして自分が被害者という事実を、家族や友人に言えないことからくる問題にも目を向けなければなりません。被害者だと名乗り出られないということは、タイ政府によるさまざまな被害者支援サービスにもアクセスできないということです。そもそもどのようなサービスがあるのか、被害者としての権利を知らない人も多いので、このような情報を伝えることが大切です。この時ピアグループの役割は重要ということも明らかになりました。

プロジェクトとしては今後 Live Our Lives (LOL)グループの活動を通じて得られた教訓を、ワークショップなどを通じてMDTと共有するとともに、社会復帰支援に関する被害者のニーズや要求をMDTメンバーに伝える機会も設けたいと思います。4月からは2年目の活動が始まります。LOLは今年度よりも盛りだくさんの活動を予定していますので、MDT通信でも逐次ご報告していきたいと思います。